

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科 設計専攻 (4年制)	夜・通信	3105時間	80×4=320時間	
	建築学科 施工専攻 (4年制)	夜・通信	2895時間	80×4=320時間	
	建築学科 設備専攻 (4年制)	夜・通信	2520時間	80×4=320時間	
	建築工学科 設計専攻 (3年制)	夜・通信	2355時間	80×3=240時間	
	建築工学科 施工専攻 (3年制)	夜・通信	2145時間	80×3=240時間	
	建築工学科 設備専攻 (3年制)	夜・通信	1770時間	80×3=240時間	
	建築設計科 (2年制)	夜・通信	1590時間	80×2=160時間	
	木造建築科 (2年制)	夜・通信	1557時間	80×2=160時間	
	建築設備設計科 (2年制)	夜・通信	1530時間	80×2=160時間	
	建築室内設計科 (2年制)	夜・通信	1605時間	80×2=160時間	
	土木建設科 (2年制)	夜・通信	842.5時間	80×2=160時間	
	造園デザイン科 (2年制)	夜・通信	1242時間	80×2=160時間	
	測量科 (1年制)	夜・通信	240時間	80×1=80時間	

	地理空間情報科 (1年制)	夜・ 通信	648時間	80×1＝ 80時間	
	インテリアデザイン科 インテリアデザイン専攻 (3年制)	夜・ 通信	1155時間	80×3＝ 240時間	
	インテリアデザイン科 ファニチュアデザイン 専攻 (3年制)	夜・ 通信	1080時間	80×3＝ 240時間	
	エンターテイン メント設営科 (2年制)	夜・ 通信	360時間	80×2＝ 160時間	
	3DCAD設計科 (2年制)	夜・ 通信	810時間	80×2＝ 160時間	
商業実務専門課 程	情報ビジネス科 (2年制)	夜・ 通信	504時間	80×2＝ 160時間	
文化・教養専門 課程	リベラルアーツ 科(1年制)	夜・ 通信	216時間	80×1＝ 80時間	
	グローバル科 (1年制)	夜・ 通信	216時間	80×1＝ 80時間	
工業専門課程	建築科 (2年制)	夜・ 通信	1480時間	45×2＝ 90時間	
	土木測量科 (2年制)	夜・ 通信	657時間	45×2＝ 90時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開している。授業科目一覧の中に、教員の実務経験に関するチェック欄あり。(掲載：
<https://chuoko.ac.jp/disclosure03>)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
(掲載：<https://chuoko.ac.jp/disclosure03>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	建築積算事務所役員	約3年	教育内容・学科編成 に対する専門的な 知見
非常勤	設備会社役員	約3年	教育内容・学科編成 に対する専門的な 知見
(備考) 当法人の現行理事の任期は令和6年6月9日～令和9年度定時評議員会終結時 まで(約3年)。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各科における授業計画書(教科構成及び教育実施計画)は、実施年度の2年前に教育分野(建築分野、デザイン分野、土木・測量・造園分野、機械・CAD分野、商業・文化教養分野)ごとに学内会議を経て決定し、前年度5月に校長の承認を得ている。また、教育実施計画書には科目の目的・目標を定め、週ごとの授業内容を記載している。当該年度6月中旬に授業計画書(教科構成及び教育実施計画)をHPにて公開している。</p> <p>授業開始にあたり、科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表(コマシラバス)を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画が表記され、全学科・全科目統一書式としている。また、同様の内容が記載された日程表を生徒に配付をしている。</p>	
授業計画書の公表方法	
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験(レポート課題含む)により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的な評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。これらは、生徒手帳に記載し周知している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>前後期の2期制を取っている。各科で学修成果の評価を基に、前後期で成績概況を作成し、各分野で取りまとめ、校長に報告をしている。</p> <p>その方法として、各科における平均点、成績分布などを報告している。本校では、Aランク(100～80点)、Bランク(79～70点)、Cランク(69～60点)、Dランク(59点以下)としている。また、同様に出席率も集計をしている。</p> <p>実習科目(卒業設計・進級課題)においては、学内で「卒業・進級作品審査要領」を定め、審査委員による評価を行い、校長に承認を得て卒業式にて学生表彰を行っている。</p> <p>成績評価基準及び、客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料をHPにて公開をしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://chuoko.ac.jp/disclosure03</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教育実施計画書(カリキュラム・ポリシー)にて、学科における入学から卒業までの目的・目標が定められ、各科目においても同様である。これらの目的・目標を定期試験や卒業作品により総合的に判断する。</p> <p>卒業認定においては、校長を審議委員長とする卒業成績審議会を実施し、卒業を決定する。</p> <p>以下の規準をもって卒業を認定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://chuoko.ac.jp/disclosure03</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	中央工学校
設置者名	学校法人 中央工学校

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月中旬に最新情報をHP公開している。
収支計算書又は損益計算書	https://chuoko.ac.jp/disclosure03/
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科	設計専攻		○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間/単位	945 単位時間 /単位	915 単位時間 /単位	1530 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		213人 (設計専攻 30人)	0人	22人	31人	53人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	0人 (0%)	53人 (96.4%)	2人 (3.6%)
(主な就職、業界等)			
<p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>建築学科では、(株)木下工務店、生和コーポレーション(株)、(株)長谷萬、広島建設(株)、(株)神田建築設計事務所など</p>			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等））			
2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、2級建築士、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
227人	7人	3.1%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	建築学科 施工専攻			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間/単位	975 単位時間 /単位	870 単位時間 /単位	1545 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		213人 (施工専攻 22人)	0人	23人	28人	51人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 	

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	0人 (0%)	53人 (96.4%)	2人 (3.6%)
<p>主な就職、業界等)</p> <p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>建築学科では、(株)三浦組、川田工業(株)、日本メックス(株)、リケン(株)、生和コーポレーション(株)など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
227人	7人	3.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築学科 設備専攻		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3420 単位時間/単位	1035 単位時間 /単位	915 単位時間 /単位	1395 単位時間 /単位	75 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
320人	218人 (設備専攻 19人)	0人	19人	31人	50人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
55人 (100%)	0人 (0%)	53人 (96.4%)	2人 (3.6%)
(主な就職、業界等)			
建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。			
建築学科では、(株)テクノ菱和、(株)ミナト設備企画設計、(株)第一ヒューテック、第一設備工業(株)、須賀工業(株)など			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等））			
2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、2級建築士、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
227人	7人	3.1%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学習意欲低下、経済的理由、病気療養など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科 設計専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間/単位	840 単位時間 /単位	570 単位時間 /単位	1170 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	70人 (設計専攻 8人)	0人	16人	24人	40人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に系（建築系・土木測量系・機械CAD系・デザイン系・国際情報系）ごとに学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	1人 (3.0%)	32人 (97.0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。			
(株)エナデザインコンサルタント、(株)ビルダリッジ、(株)紅梅組、タクトホーム(株) など			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93人	3人	3.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学習意欲低下など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科 施工専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間/単位	870 単位時間 /単位	525 単位時間 /単位	1185 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		70人 (施工専攻 13人)	0人	15人	21人	36人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に系（建築系・土木測量系・機械CAD系・デザイン系・国際情報系）ごとに学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 (100%)	1人 (3.0%)	32人 (97.0%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>(株)ワールドコーポレーション、(株)佐伯工務店、田中土建(株)、(株)東都設計、岡建工事(株)など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93人	3人	3.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、学習意欲低下など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築工学科 設備専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2610 単位時間/単位	930 単位時間 /単位	570 単位時間 /単位	1035 単位時間 /単位	75 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180人	70人 (設備専攻 12人)	0人	14人	23人	37人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に系（建築系・土木測量系・機械CAD系・デザイン系・国際情報系）ごとに学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションは実習科目で学生全員が取り組み、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	1人 (3.0%)	32人 (97.0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>東邦ハウジング㈱、大東建託㈱、東急リニューアル㈱、川口土木建設㈱、東洋建設㈱ など</p>			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等））			
2級管工事施工管理技士補、2級建築士、ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築積算士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
93人	3人	3.2%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学習意欲低下など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	720 単位時間 /単位	375 単位時間 /単位	675 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
360人	190人	3人	14人	31人	45人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、クラスは担任制により運営し、生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
103 (100%)	11人 (10.7%)	90人 (87.4%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
<p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>建築設計科では、(株)第一ヒューテック、(株)ライフ設計事務所、川村積算、越野建設(株)、(株)永山建築設計事務所など</p>			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等））			
2級建築施工管理技士補、ビジネス能力検定ジョブパス3級、福祉住環境コーディネーター3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
220人	25人	11.4%
(中途退学の主な理由)		
学習意欲低下、進路変更、学業不振、健康障害、出席不良、不認定など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	木造建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	690 単位時間 /単位	135 単位時間 /単位	945 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	55人	1人	9人	19人	28人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。</p> <p>技能大会に参加する意欲ある学生には個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	1人 (3.3%)	27人 (90.0%)	2人 (6.7%)
(主な就職、業界等)			
<p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>木造建築科では、(株)佐藤秀、ポラス(株)、越野建設(株)、タクトホーム(株)、(株)小河原建設など</p>			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等））			
ビジネス能力検定ジョブパス3級、建築大工技能士3級、丸のこ等取扱作業の安全衛生教育など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72人	12人	16.7%
(中途退学の主な理由)		
学業不振、学習意欲低下、健康障害、不認定など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築設備設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	555 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	1110 単位時間 /単位	135 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	30人	1人	6人	11人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。			
建築設備設計科では、大成設備㈱、横河東亜工業㈱、富士熱学工業㈱、櫻井工業㈱、㈱三機サービスなど			
(就職指導内容)			
就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
2級管工事施工管理技士補、消防設備士甲種一類、ビジネス能力検定ジョブパス3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	5人	15.6%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学習意欲低下など		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築室内設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	525 単位時間 /単位	420 単位時間 /単位	855 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	42人	1人	10人	14人	24人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。</p> <p>コンペティションや技能大会に参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p> <p>著名な建築家を学内に招き、講演会を通じ建築の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	0人 (0%)	31人 (96.8%)	1人 (3.2%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>建築室内設計科では、クリナップ(株)、(株)リフレット、(株)丹青TDC、(株)日商インターライフ、(株)K GRITなど</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>色彩検定3級、2級リビングスタイリスト、パース検定2級、ビジネス能力検定ジョブパス3級など</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62人	10人	16.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、学習意欲低下、学業不振など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	土木建設科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1903 単位時間/単位	1062 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	766 単位時間 /単位	75 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	77人	1人	10人	20人	30人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	3人 (7.7%)	36人 (92.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。 土木建設科では、（株）福田組、（株）ユーディケー、岩田地崎建設（株）、馬淵建設（株）、（株）ガイアートなど。			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2級土木施工管理技士補、測量士補			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
92人	12人	13.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振、出席不良、進路変更 等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	造園デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1984 単位時間/単位	922 単位時間 /単位	360 単位時間 /単位	702 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	4人	0人	3人	9人	12人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	0人 (0. 0%)	4人 (100. 0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2. 0%）、コンサルタント（15. 0%）、測量（16. 0%）、総合工事（41. 0%）、土木工事（造園含む）（24. 0%）、鉄骨構造物工事（1. 0%）、物品賃貸（リース）（1. 0%）である。造園デザイン科では、東急グリーンシステム（株）、AJEX（株）、（株）DesignPlace森本庭苑舎など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 3級造園技能士、2級造園施工管理技士補など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10人	2人	20. 0%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	測量科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1305 単位時間/単位	858 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	447 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		50人	0人	4人	12人	16人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等

（概要）

一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
49人 (100%)	12人 (24.0%)	35人 (71.40%)	2人 (4.0%)
（主な就職、業界等） 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。測量科では、ビック測量（株）、大洋画地（株）、八州（株）、京葉測量（株）、大東エンジニアリング（株）など			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士補			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
51人	3人	5.9%
（中途退学の主な理由） 学業不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	地理空間情報科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1345 単位時間/単位	831 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	474 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	40 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	25人	0人	3人	10人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 卒業基準</p> <p>○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。</p> <p>○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。</p> <p>○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。</p> <p>○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	22人 (95.7%)	1人 (4.3%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。地理空間情報科では、（公財）日本測量協会、アジア航測（株）、（株）オオバ など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26人（後期復学者除く）	3人（後期復学者含む）	11.5%
(中途退学の主な理由) 健康障害、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ｲﾝﾌｫﾙﾐｴｰｼｮﾝｼｽﾃﾐ科ｲﾝﾌｫﾙﾐｴｰｼｮﾝｼｽﾃﾐ専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2688 単位時間／単位	525 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	2163 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	73人 (ｲﾝﾌｫﾙﾐｴｰｼｮﾝ 専攻41人)	0人	5人	12人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業制作や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションに参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>業界人による講演会を通じ業界の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25人 (100%)	1人 (4%)	23人 (92%)	1人 (4%)
(主な就職、業界等) インテリアデザイン科インテリアデザイン専攻では、(株)ウエル・ユーカン、クリナップ(株)、(株)デザインカフェ、(株)ファイブズホーム、長野県住宅供給公社 など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定2級、色彩検定3級、商業施設士補 など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95人	7人	7.4%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下 進路変更 出席不良 健康障害など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	工学部工学部専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2688 単位時間/単位	330 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	2358 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		32人 (工学部専攻15人)	1人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業制作や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>コンペティションに参加する意欲ある生徒には、放課後等を使い個々での指導を行い、入賞するよう積極的な就学を支援している。</p> <p>業界人による講演会を通じ業界の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等) インテリアデザイン科ファニチュアデザイン専攻では、(有)インテリアロード、スペースディスプレイ(株)、(株)テクノアート、木工房藤澤(株) など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定3級 など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
95人	7人	7.4%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	エンターテインメント設営科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1872 単位時間/単位	450 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	1422 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		2人	0人	1人	10人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業制作や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 	

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>業界人による講演会を通じ業界の楽しさや何を学ぶのかなど通常の授業では学ぶことのできないプログラムによる支援を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) エンターテインメント設営科では、(株)ムラック、(株)ウィーズ、(株)ゲインコーポレーション、(有)インテリアロード など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) イベント検定、色彩検定3級、足場の組立て等の業務に係る特別教育 など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	1人	12.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更 など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	3DCAD設計科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間/単位	225 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	1575 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	72 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	29人	3人	3人	3人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）ごとに学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>1年次には工場見学を実施している。生産現場を見学することにより、加工方法やモノづくりの流れについて理解を深めている。</p> <p>2年次には3次元CAD利用技術者試験を本校内にて実施している</p> <p>本校は、SOLIDWORKS 認定アソシエイト（CSWA）のプロバイダであり、学内においてCSWAを実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (0%)	人 (0%)	人 (0%)	人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) SOLIDWORKS 認定アソシエイト（CSWA） 3次元CAD利用技術者試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学後の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	情報ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1728 単位時間/単位	1080 単位時間 /単位	432 単位時間 /単位	216 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	36人	34人	4人	7人	11人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
<p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	1人 (11.1%)	7人 (77.8%)	1人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 主な業界は、IT (42.9%)、サービス (57.1%) などである。主な就職先は、(株)Oriental Kingdom Group、(株)コロワイド、(株)サイクルワークスなどである。			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日商簿記検定3級、全経簿記能力検定2級(商業)/2級(工業)/3級、MOS PowerPoint2016/Excel2016/Word 2016/Word Expert 2016、ビジネス実務マナー検定2級/3級など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	2人	10.5%
(中途退学の主な理由) 大学院進学、帰国など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	リベラルアーツ科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	864 単位時間/単位	792 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	72 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		35人	35人	5人	7人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>	
成績評価の基準・方法	
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>	
卒業・進級の認定基準	
<p>（概要）</p> <p>■ 卒業基準</p> <p>○履修すべき所定の全科目に合格すること。</p> <p>○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。</p> <p>○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。</p> <p>○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。</p>	
学修支援等	
<p>（概要）</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p>	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
26人 (100%)	14人 (53.8%)	8人 (30.8%)	4人 (15.4%)
（主な就職、業界等） 主な業界は、IT（62.5%）、サービス（25.0%）などである。主な就職先は、LYC(株)、(株)共同ソリューションズ、(株)ドリアなどである。			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEFL、TOEIC、日本語能力試験N1など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	1人	3.7%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	グローバル科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	864 単位時間/単位	864 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	46人	46人	5人	9人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、生徒を支援している。</p> <p>在学中に資格取得を推奨している。そのため、4月のガイダンス時に目標、年間スケジュールが立てられるよう支援している。また、無料の受験対策講習会を開くなどしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 (100%)	33人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEFL、TOEIC、日本語能力試験N1など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	3人	8.3%
（中途退学の主な理由） 病気治療、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1712 単位時間/単位	764 単位時間 /単位	148 単位時間 /単位	800 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	53人	0人	8人	16人	24人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。</p> <p>科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。</p> <p>100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>■ 進級基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。 ○所定の進級手続きを完了すること。 <p>■ 卒業基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。 ○履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。 ○学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。 ○納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担任が中心に行い、学生を支援している。</p> <p>また、実務的な体験型学習として設計製図の日程の中で材料実験を実施し、鉄筋の引張試験、コンクリート練り体験、コンクリートの圧縮試験を行っている。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	1人 (2.9%)	29人 (82.9%)	5人 (14.3%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>建築系全体では、総合工事業（28.3%）、建築工事業（21.9%）、建築設計業（17.2%）、設備工事業（9.4%）である。</p> <p>建築科では、(株)ワットコンサルティング、(株)東京田建、(株)大林デザインパートナーズ、三郷市役所、(株)小原建設など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、就職個別相談等</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>建築積算士補、2級建築施工管理技士補、福祉住環境コーディネーター3級など</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
73人	16人	21.9%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>学習意欲低下、出席不良、病気療養、仕事多忙など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	土木測量科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	1730 単位時間/単位	1046 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	604 単位時間 /単位	80 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	20人	0人	6人	11人	17人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

各科における教科構成及び教育実施計画は、実施年度の2年前に各教員室（工業第一、工業第二、商業・文化）に学内会議を経て設定を行う。また、教育実施計画書に科目の目的、目標を定め、週ごとの授業内容を定めている。

科目責任者、担当教員を中心に指導記録及び実施記録表（コマシラバス）を作成し、1時間単位での授業計画を行っている。授業科目名、実施時間数、担当教員名、実務家教員、企業連携科目、授業の目的、目標、講義概要、授業計画を全科・全科目統一書式としている。

成績評価の基準・方法

（概要）

学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

卒業・進級の認定基準

（概要）

■ 進級基準

- 学習態度が良好と認められ、所定の全科目に合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。
- 所定の進級手続きを完了すること。

■ 卒業基準

- 履修すべき所定の全科目に合格すると共に、所定の卒業作品を提出し、これに合格すること。
- 履修期間の出席日数が規定の出席率以上であること。
- 学習態度等を勘案し、人格、品性共に社会人としての資質を有すると認められること。
- 納入すべき所定の費用を期日までに完納すること。

学修支援等
(概要) 一般科目や専門科目においては、小テストなどを通じて、各自の理解度をチェックするなど各教科で行われている。実習科目では、課題ごとに提出期限を定め、完成度や理解度を確認し、生徒個々にあった指導を行っている。また、担任制により生徒の相談受付（就学状況・就職、進学状況など）や面談を担当が中心に行い、学生を支援している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0.0%)	10人 (100.0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 土木測量系全体では、総合設計（2.0%）、コンサルタント（15.0%）、測量（16.0%）、総合工事（41.0%）、土木工事（造園含む）（24.0%）、鉄骨構造物工事（1.0%）、物品賃貸（リース）（1.0%）である。 土木測量科では、双葉航測（株）、野口建設（株）、（株）協立コンサルタンツ、（株）中野技術 など			
(就職指導内容) 就職ガイダンス（年4回）、学内合同企業説明会（年2回）、就職個別模擬面接、就職支援サイト活用講座、女子学生向けリクルートメイクアップセミナー、就職個別相談等			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士補			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 入学前の進路確認、担任面談による指導などを行っている。また、進路変更希望者には、動機や今後の希望など面談で把握するとともに、速やかに保護者と連携し、3者（生徒・保護者・担任）により今後の進路を決定している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築学科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	その他は、 施設維持費・学生諸費
建築工学科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
建築設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
木造建築科	200,000 円	900,000 円	290,000 円	
建築設備設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
建築室内設計科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
土木建設科	200,000 円	900,000 円	290,000 円	
造園デザイン科	200,000 円	792,000 円	290,000 円	
測量科	200,000 円	1,050,000 円	290,000 円	
地理空間情報科	200,000 円	1,050,000 円	290,000 円	
インテリアデザイン科	200,000 円	900,000 円	280,000 円	
エンターテインメント設営科	200,000 円	792,000 円	280,000 円	
機械設計科	200,000 円	792,000 円	270,000 円	
3D-CAD 科	200,000 円	792,000 円	270,000 円	
3DCAD 設計科	200,000 円	900,000 円	270,000 円	
情報ビジネス科	0 円	550,000 円	250,000 円	
国際コミュニケーション科	0 円	450,000 円	250,000 円	
リベラルアーツ科	0 円	550,000 円	250,000 円	
グローバル科	0 円	550,000 円	250,000 円	
建築科(夜間)	120,000 円	420,000 円	120,000 円	
土木測量科(夜間)	120,000 円	420,000 円	130,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/disclosure03/)
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、中央工学校運営指針に則り自己評価を実施している。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となっている。また、卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図っている。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
設備工事会社 課長 (建築関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
造作家具工事会社 代表取締役 (デザイン関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
測量会社 支社長 (土木・測量・造園関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
昇降機据付・設計会社 グループリーダー (機械・CAD関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
包装梱包機械の企画・開発 代表取締役社長 (商業・文化関連学科)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
同窓会 相談役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
高等学校 副校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	教育関係者
保護者	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	保護者
近隣町会 会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/disclosure03/)		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価については、学校HP公開している。 (https://chuoko.ac.jp/)
--